



こころみ

2009. 3. 11

担当：教務主任会

移行期間中の外国語活動と外国語について

新年度から外国語活動の授業がスタートします。2年間で30時間程度の校内研修会をもちながら、5、6年生の学級担任だけでなく、**学校全体で取り組む**こととなります。スタートするに当たって若干の不安もあると思いますが、小学校と中学校における外国語活動と外国語の指導やその準備等についてまとめてみました。



小学校においては

□小学校外国語活動の目標の理解・・・「素地を養う」と「基礎を養う」

「素地を養う」と「基礎を養う」を踏まえて計画立案と授業実践をすることが大切です。中学校における外国語(英語)の目標は「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などのコミュニケーション能力の基礎を養うことです。中学校の学習内容の前倒しではありませんが、これまで中学校英語で目標としていた「聞くこと」、「話すこと」に慣れ親しむ部分を、小学校の外国語活動でコミュニケーション能力の素地として取り扱うと考えることができます。

□移行期間中(21年度～)の年間指導計画の作成

- ・小学校英語活動の目標や児童の実態を踏まえ、23年度の完全実施を見通して21年度の実施時数、指導体制を決定します。
- ・小・中連携部会等を活用して所属する中学校区内の小学校で共通して指導する内容等を明確にします。
- ・大館市教育課程編成委員会作成の年間指導計画を参考にして作成します。この年間指導計画は「英語ノート」の活用例に準じ、35時間実施の計画で移行期間中に最小限取り扱いたい内容を取り入れたり、中学校の指導内容との関連を図ったりするように工夫しています。
- ・ネイティブスピーカー(ALT)の活用を位置付けます。21年度の大館市ALTの学校訪問については4月はじめの小学校英語活動研修会等で具体的に説明があります。

□外国語活動にかかわる校内研修の計画と実施(2年間で30時間程度の研修)

- ・県の小学校外国語活動の実施に向けた教員研修(現職教員研修プログラム)を実施します。既に、中核教員研修で作成した各校の研修計画を基に学校の年間研修計画に位置付けることが必要です。

平成21年度(15時間)

(1) 授業力向上研修(10時間)	(2) 英語運用能力向上研修(5時間)
○校内研修オリエンテーション(1時間) ・自校の課題～今年度の取り組み	○ALTによる研修(3時間) ・ゲーム、チャンツ(リズムに乗せた言葉遊び)等の実際 ・クラスルームイングリッシュや、TTで使う表現等について
○模擬授業研修(演習)(4時間) ・指導案作成～教材作成～発表～相互評価	○効果的な自己研修について(2時間) ・各自の実践の紹介 ・効果的な教材について
○授業研究(3時間) ・指導案作成～研究授業～研究協議会	
○研修のまとめ(2時間) ・成果と課題 ・今後の研究の方向性について	

例【桂城小学校の研修】

中学校においては

□小学校の外国語活動との関連に留意した指導計画を作成するための準備として

○小学校外国語活動の内容の把握

- ・平成21年度から各年度ごと、自校の中学校区の各小学校が共通して指導する内容や児童の活動の状況等を把握します。小学校外国語活動の目標を踏まえて慣れ親しんでくること(素地)を把握し、その際、扱われている単語や表現などの言語材料をまとめます。
- ・小・中連携部会等で小学校外国語活動の指導について話し合う場を設定します。

○21年度年間指導計画作成上の留意点

- ・小学校段階で、コミュニケーション能力の素地が育成されることを踏まえ、「聞くこと」「話すこと」の指導内容の改善と「読むこと」「書くこと」の指導の充実について検討します。
- ・定着を図ったり、学んだことを活用させたりするために「繰り返して指導する」ことを21年度の年間指導計画に位置付けます。

外国語活動の授業でこころがけたいこと



- ねらいをはっきりさせて、そのねらいが達成できるよう活動を絞みましょう。英語ノートには十分すぎるほどの活動例があります。年間指導計画の活動例を参考にしながら、すべての児童がねらいを達成できるようにしましょう。
- 45分授業を、9分ウォームアップ(準備、あいさつ等を含む)、9分復習、27分本時、9分確認をめやすに、9分×5で授業を組み立ててみてはどうでしょうか。子どもの集中力と児童の人間関係を考慮した活動を計画しましょう。
- 英語ノートの実物がなくても、DVD版をスクリーンや電子黒板に写しておこなうことができます。また、CDの音声で活動することもできますが、DVD版では音声を遅いモードで再生することもできます。CD、DVD等の視聴覚機器の整備をしましょう。
- 教師自身のモードスイッチを切り替えて、英語を使いながら児童と一緒にコミュニケーションを楽しむことを心がけましょう。Hello. Thank you. Good.などの基本的なクラスルームイングリッシュとともに表情やジェスチャーを大事にしながら、子どもたちとお互いの間違いを許容し合いながら笑い合える雰囲気を作りましょう。一生懸命努力している子どもをほめましょう。
- なりきることが大事です。100円ショップなどで売っているちょっとした小道具が活動を楽しくさせます。英語ノートを開いて、ねらいが達成できるような活動を設定し、そのために必要な教材を準備しましょう。特技を生かした自作の小道具であればもっと楽しくなりますよ。
- 活動のねらい、手順、ルール、役割などをはっきりさせ、児童が十分理解した上で活動をスタートさせましょう。活動時間を十分にとり、あせらないでやれるようにしましょう。活動が終わったらどうするのかもはっきりさせます。ALTや他の先生とのTTで行うことができれば、デモンストレーションなどで活動をわかりやすく提示できます。HRTは活動のコントロールとつまずいている児童の支援・評価を適切に行いましょう。
- ことばを練習するときリピート式にするかいっしょに発音しながら練習するかをはっきりさせましょう。また、学習形態についてもペア練習→グループ練習→全体練習にするなど、ねらいに合ったわかりやすい学習形態になるように工夫し、たくさんの人と対話できるような自然な環境を作りましょう。
- 「大きな声で」と指導するよりも、児童に自信をつけさせることが大切です。みんなの前で発表することは容易なことではありませんが、練習に裏付けられ、学級の雰囲気が和んだものになれば大きな声になり、みんなの前で発表できるようになります。また、間違いを訂正する場合は、児童が言ったことをオウム返しで言って、気づかせればよいでしょう。

最初から完璧な英語や授業を目指さず、楽しみながら英語を使って伝えようとする
コミュニケーションの素地を養うことを心がけましょう。Good luck!